

令和7年度 いもち病感染好適条件(BLASTAM)判定結果

発生指標	●	:好適条件	1	:準好適条件1	2	:準好適条件2	3	:準好適条件3	4	:準好適条件4
	—	:好適条件無	?	:判定不能						

- ・**好適条件(いも病の感染に好適な気象条件)**
 湿潤期間中の平均気温が15～25度、湿潤時間が10時間(22～25度)～17時間(15度)、直前の5日間の平均気温が20度を越え25度未満。
 ・**準好適条件(好適条件に準ずる気象条件)**
 準好適条件1: 湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20度未満。(前日までの**気温が低い**)
 準好適条件2: 湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25度以上。(前日までの**気温が高い**)
 準好適条件3: 湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15度～25度の範囲外。(当日の**気温が不適**)
 準好適条件4: 湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い。(当日の**湿潤時間が短い**)
 ※準好適条件1～準好適条件4は、重要性の順位ではない。したがって、準好適条件の数値の高低そのものに重要性の意味はない。

※ただし、3mを超える雨(葉面が乾く)や、時間雨量3mmを超える雨(胞子が雨で流される。)があると湿潤時間の継続が打ち切りとなる場合があった。好適条件が現れてもちに病に感染しても、気温が30度を越える晴天の日が続くと病斑が出てきなくなる病斑してない。

[illegible]

発生指標	●	: 好適条件	1	: 準好適条件1	2	: 準好適条件2	3	: 準好適条件3	4	: 準好適条件4
	—	: 好適条件無	?	: 判定不能						

- [illegible]